序　iii
被爆から被曝、そしてヒバクへ
ヒロシマ、ナガサキ、そしてヒバクシャ
ヒロシマ　ナガサキとは何か？
記憶とは何か？
現代社会史的な日本の「戦後」区分
「唯一の被爆国　被爆国民」という神話
本書の構成

第Ⅰ部　軍都「廣島」「長崎」からヒロシマ／ナガサキへ

第1章　なぜ広島と長崎が原子爆弾の投下目標となったのか？
広島のなりたち
長崎のなりたち
広島の近代都市化・軍事化
長崎の近代都市化・軍事化
軍都「廣島」
軍都「長崎」
昭和一六（一九四一）年一二月八日
マンハッタン計画
無差別爆撃と戦略爆撃
日本空爆から原爆投下まで
まとめ

第2章　広島と長崎では何が起こったのか？　25
昭和二〇（一九四五）年八月六日午前八時一五分
昭和二〇（一九四五）年八月九日午前一一時〇二分
昭和二〇（一九四五）年八月一五日
原爆被害
熱線による被害――原子爆弾熱傷
医療や援護
原爆症認定制度
国連報告書
まとめ
第3章　広島と長崎はどのように想起／忘却されてきたのか？　61
原爆報道
米国の「原爆神話」
日本の「戦争被害受忍論」
戦後日米関係の「起源の物語」
「核の傘」という虚構
まとめ
第Ⅱ部　日本のなかの「ヒロシマ」「ナガサキ」
第4章　爆心地を再生する――広島と長崎の戦後復興　87

広島平和記念公園
長崎平和公園
広島平和都市記念碑
長崎平和祈念像
広島市の取り組み
長崎市の取り組み
被爆地の現在
まとめ

第5章　歴史／物語を保存する——広島平和記念資料館と長崎原爆資料館

広島平和記念資料館
遺品の〈かつて〉と〈いま〉
写真の〈かつて〉と〈いま〉
展示構成の〈かつて〉と〈いま〉
長崎原爆資料館
遺品の〈かつて〉と〈いま〉
写真の〈かつて〉と〈いま〉
展示構成の〈かつて〉と〈いま〉
まとめ

第6章　記憶を記念＝顕彰化する——広島平和記念式典と長崎平和祈念式

「戦後」という時代区分
広島平和記念式典
長崎平和祈念式
平和宣言
日本政府の関心
内閣総理大臣の挨拶
まとめ

第7章　過去と物語・記憶を表象する——全国紙VS.地方紙　199
メディア・リテラシー
ナショナルな「原爆の日」
ローカルな「平和記念日」
ナショナルなまなざし——全国紙のなかの「ヒロシマ」「ナガサキ」
ローカルなまなざし——地方紙のなかのヒロシマ／ナガサキ
まとめ

第8章　原爆体験を思想化する——かつて、いま、そしてこれから
国家補償を求める被爆者運動
記憶の形象
原爆体験の思想化
積分（Σシグマ）の論理
核抑止論——「想話テクスト的」な現象
「人道に対する罪」の遡及性
まとめ

第Ⅲ部　グローバル化のなかのヒロシマ／ナガサキ

第9章　検定歴史教科書のなかの原爆投下　291
記憶から歴史へ
国定教科書から検定教科書へ
原爆投下をめぐる教科書記述

検定「歴史教科書」という表象空間
戦後日本の平和教育
まとめ

第10章　「記憶の場」のなかの原爆体験　329

ヒロシマに学ぶ　広島平和記念公園とその周辺の記念碑・慰霊碑および詩碑から
ナガサキに学ぶ――長崎平和公園とその周辺の原爆遺構から
取り壊された浦上天主堂と永久保存される原爆ドーム
まとめ

結　論　361

原爆の記憶
原爆体験と被爆の記憶
ナショナルな集合的記憶
グローバリゼーションと歴史認識
「核なき世界」への展望

あとがき　395
註　403
索引　1